

レポートファイル作成マニュアル

OLIVE®

オリーブ情報処理サービス株式会社

レポートファイルとは(レポートファイル：拡張子は.rpt)

表(.TBL ファイル)のデータを印刷する方法には、一覧表印刷とレポート印刷とがあります。
弊社の自動配信システムでは「環境設定」上で設定した「読込ファイル名(CSV データ)」を、桐の表(明細.TBL)に読み込みます。
表の一覧表印刷では桐が用意した設定内容を選ぶかたちで印刷形式を設定していくので、ある程度決まった形式でしか印刷できませんが、給与明細書や納品書等を自社の形式で印刷したい場合や、市販の伝票用紙に印刷したい場合等は、レポート印刷の機能を使います。

レポートの種類
レポートには、次の５つの種類があります。

- **単票**
- **一覧表**
- **伝票**
- **タックシール(タイル)**
- **複合**

単票形式レポート
カードのように、１枚の用紙に１レコードを印刷する場合に使用します。

一覧表形式レポート
一覧表印刷のように、データを一覧表形式で印刷したい場合に使用します。

伝票形式レポート
市販の伝票用紙等に印刷する場合に使用します。

タックシール形式（タイル形式）レポート
市販の宛名ラベル用紙等に印刷する場合に使用します。

複合レポート
１つのレポートの中に単票・一覧表・伝票・タックシールを組み合わせて印刷することができる形式を複合レポートといいます。
複合レポートでは、表紙や裏表紙を作成することもできます。

単票レポート形式の作成方法を中心にレポートマニュアルから抜粋・付加して説明させていただきます。

レポートには次の３つの作成方法があります。

- 白紙→レポート定義
  白紙の用紙に対して、全てを手作業で指定していく作成方法です。
- 簡易作成
  ガイドに従って順に指定することにより、桐が自動的にレポートを作成します。
- テンプレート
  あらかじめ桐に用意されているレポート定義です。
  レポートの種類等を指定すると、自動的に作成されます。
  使用する表も、表の新規作成のテンプレートで作成しておくと便利です。

表を含めて全てを桐に任せて作成したい場合はテンプレートを使い、自分で定義した表を使う場合には簡易作成でレポート作成して修正する方が容易ですが、自動配信システムで配信するレポートの対象表は
「明細.TBL」を指定する必要があります。

サンプルのレポートファイルを編集して作成する

- **給与帳票レポートファイル　10 種**
- **賞与明細**
- **源泉徴収票**
- **住民票　税額通知書**
- **扶養控除(異動)通知書**
- **給与所得者の保険料控除申告書 兼 給与所得者の配偶者特別控除申告書**

明細配信データファイル作成の注意
明細配信データは CSV 形式です。
1 行目は項目行をセットしてください。列数は最大 300 列です。
項目名の変数の値は&A1〜&A300 までになります。
カンマ付きで表示させたい金額データ等は、"100,000"のようにしておくと
レポート作成時の定義が簡単にできます。
※　カンマ付きではデータ作成できない場合は、後ページのオブジェクト定義の仕方を参照してください。

※各フォルダの中にサンプルデータ、印刷見本（pdf ファイル）が格納されています。

レポートの再定義

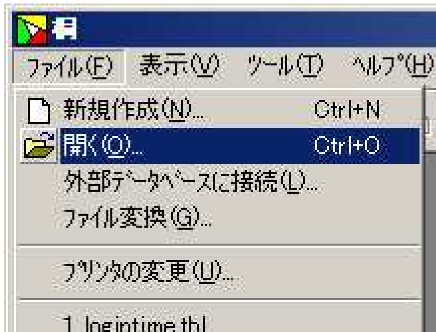
　レポートのレイアウト等を編集することをレポートの再定義といいます。

※ご注意

　お使いの給与システムのバージョンによって、インストール先フォルダが異なる場合があります。

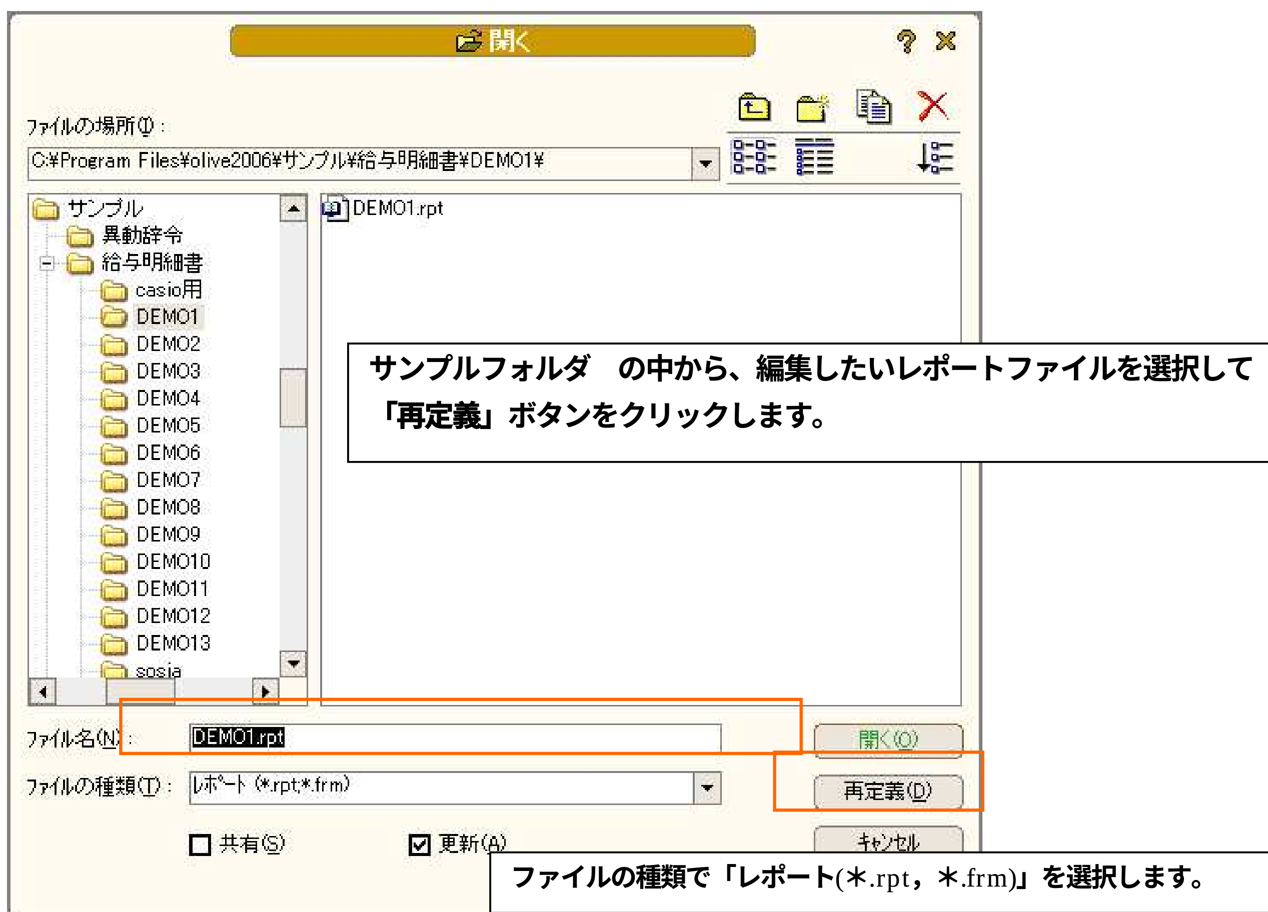
●　桐からの再定義

桐メニューバーの「ファイル」メニューから「開く」を選びます。



「開く」画面が表示されます。

インストール先フォルダ内「サンプル」フォルダを選択します。



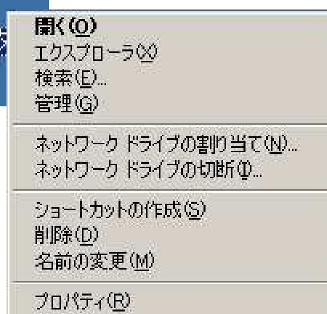
※「開く」ボタンをクリックするとレポートのプレビュー画面を表示します。

● エクスプローラからの再定義



デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック

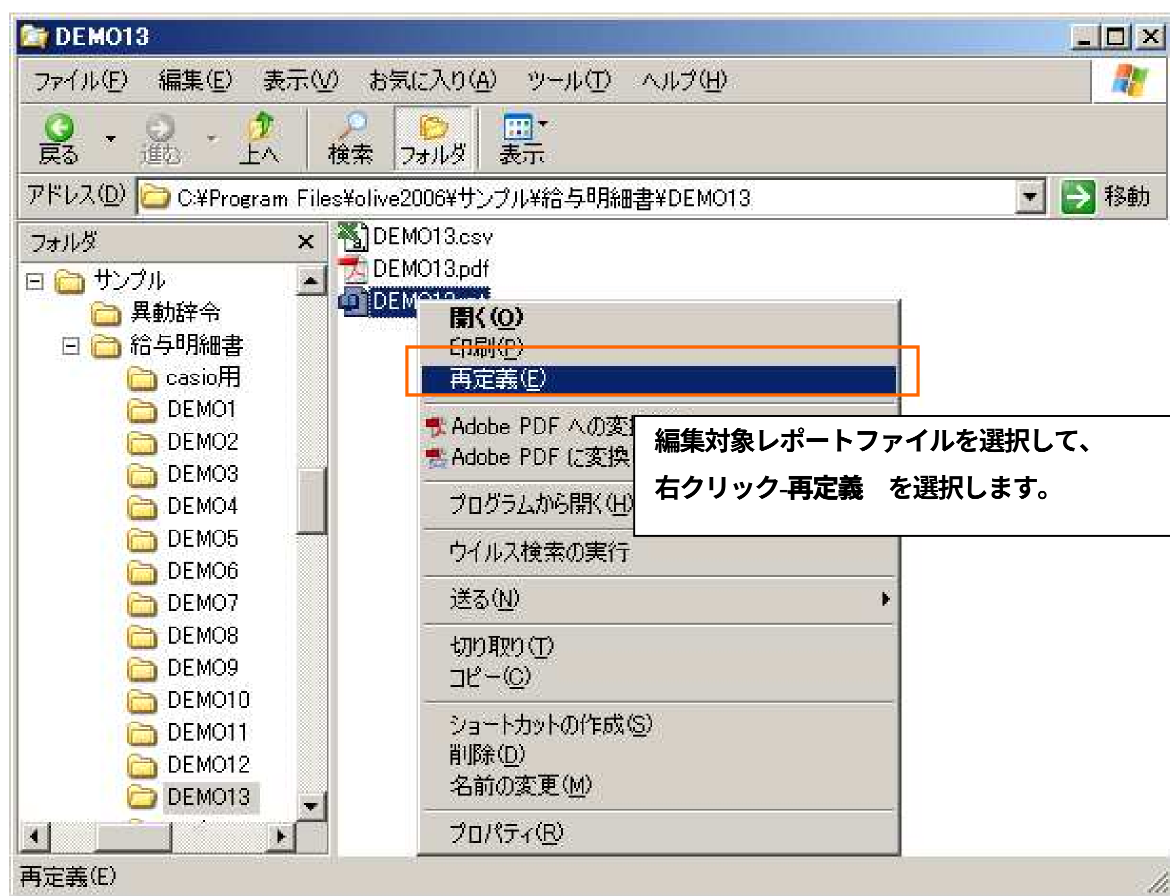
または　右クリック-開く　からエクスプローラを開きます。



インストール先フォルダ内「サンプル」フォルダを選択します。

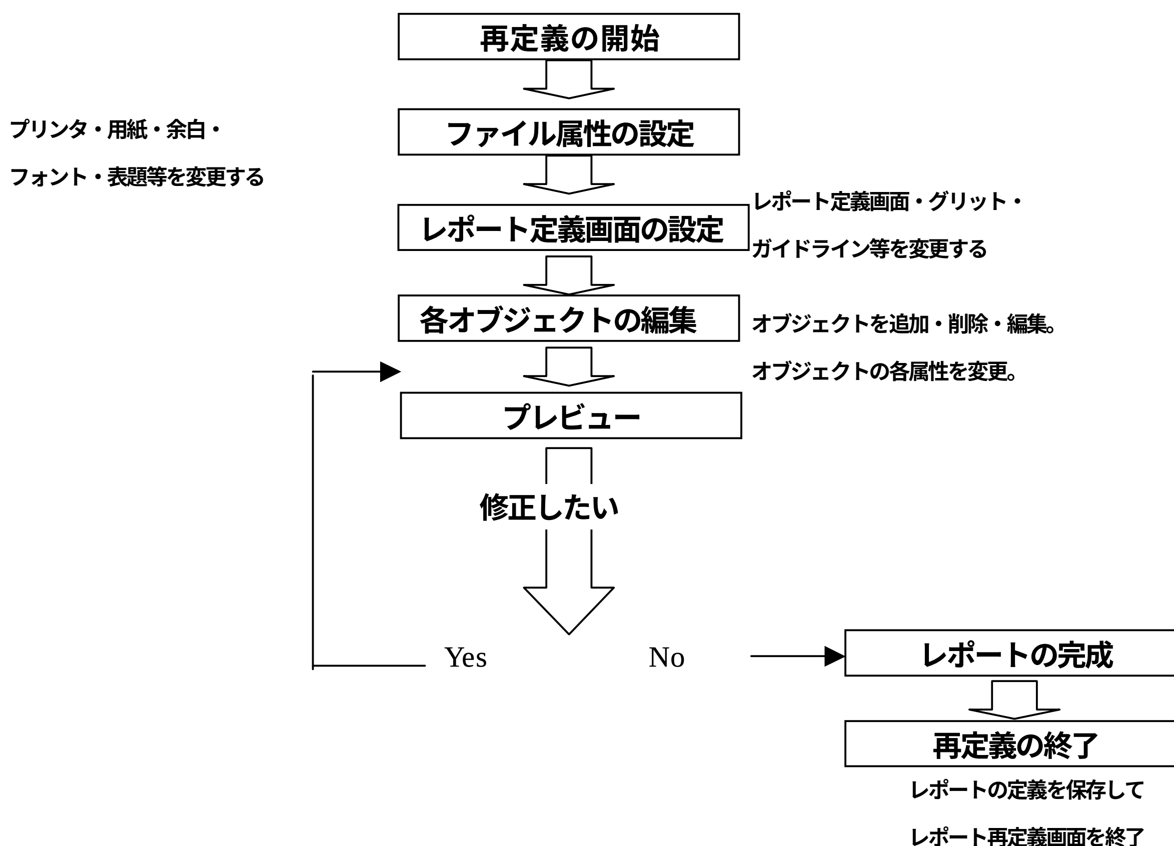
サンプルフォルダの中から編集したいレポートファイルを選択して

　右クリック-再定義　を選択します。



※「開く」ボタンをクリックするとレポートのプレビュー画面を表示します。

レポートの再定義は、およそ次のような手順で行います。
プレビュー画面でレポートの定義状態を確認しながらレポート定義を修正していきます。
プレビュー画面でデータが適切に印刷されることを確認したら、レポート定義を保存して完成です。



レポート定義の前に

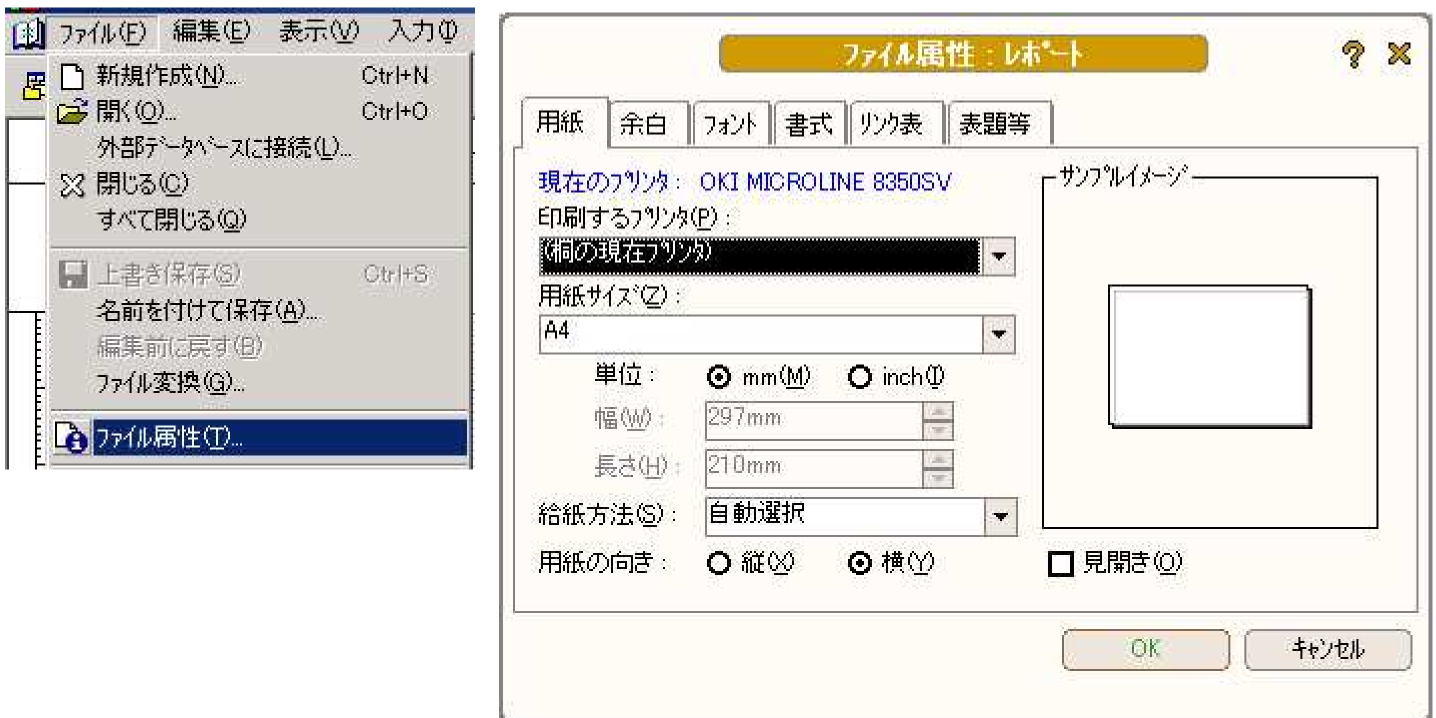
レポート定義を始める前に、定義画面の動作や各部の表示を設定しておくと作業しやすくなります。
レポート定義の開始時に一度だけ設定するものと、その時の操作に応じて随時表示するものと 2 種類があります。

＜定義時に設定するもの＞
レポート定義：再定義を始める時に設定します。
一度設定すれば、レポートに保存されます。
定義画面の設定：動作や操作方法等を設定します。
グリッド：用紙の単位系を設定します。(ルーラーに反映されます。)
用紙の改行　文字のピッチに合わせて設定します。
ガイドライン：市販の帳票等に印刷するときに仕切り線に合わせて設定します。

＜定義中に設定・表示するもの＞
表示倍率：定義画面の倍率です。
ページレイアウトパレット：マスターページやヘッダ/フッタページ等を使用するときに表示します。
(複合形式レポートでのみ使用できます。)
項目名パレット：項目名一覧からオブジェクトを定義するときに表示します。
見開き表示：見開き印刷を想定しているときに表示します。

ファイル属性の設定
レポートファイルの属性

ファイル属性画面の表示
レポートの定義画面で[ファイル]メニューから[ファイル属性]を選びます。
タブを切り替えてそれぞれの属性を設定します。
ファイル属性の設定を終えるには[OK]ボタンをクリックします。
設定を取り止めるには[キャンセル]ボタンをクリックします。



[ファイル]→[ファイル属性]
用紙サイズ、余白、フォント、印刷対象表、表題等は、レポートのファイル属性に設定します。
ファイル属性は、レポートの定義で最初に設定するようにします。
[ファイル属性]画面は次の6個のタブで構成されます。
用紙：プリンタ、用紙サイズ等を設定します。もっとも基本的な属性です。
余白：余白を設定します。
フォント：基本となるフォントを設定します。
書式：文字間・行間・組み方向等を設定します。
対象表：印刷対象表や改行文字等を設定します。
表題等：表題やバーコード、負記号等を設定します。

■用紙タブ■

用紙タブでは、印刷に使うプリンタと用紙に関する設定を行います。

用紙タブは、レポートの定義の中で最初に行います。

画面右側にあるサンプルイメージを参考に設定します。

ファイル属性：レポート

用紙 余白 フォント 書式 リンク表 表題等

現在のﾌﾟﾘﾝﾀ： OKI MICROLINE 8350SV

印刷するﾌﾟﾘﾝﾀ(P)：

（桐の現在ﾌﾟﾘﾝﾀ）

用紙サイズ(Z)：

A4

単位： mm(M) inch(I)

幅(W)： 297mm

長さ(H)： 210mm

給紙方法(S)： 自動選択

用紙の向き： 縦(X) 横(Y)

サンプルイメージ

見開き(O)

OK キャンセル

・印刷するプリンタ

プリンタを選択します。

使用できる用紙、給紙方法、余白、書式等の設定範囲は、ここで選択したプリンタによって変わります。

サンプルのレポートファイルは「桐の現在のプリンタ」に設定してあります。

明細印刷機能をカスタマイズされている場合も「桐の現在のプリンタ」を設定してください。

・用紙サイズ

用紙を選択します。

[印刷するプリンタ]で使用できない用紙サイズは一覧に表示されません。

一覧にないサイズの用紙は、[ユーザー定義サイズ]を選択してから、[単位]、[幅]、[長さ]を指定します。

・単位

用紙の単位系を選択します。

一般に単票用紙は「mm(ミリ)」、連続用紙は「inch(インチ)」を選択します。

・幅/長さ

[用紙サイズ]で[ユーザー定義サイズ]を選択したときのみ指定できます。

用紙の幅と長さを指定します。

一覧にないサイズの市販の印刷帳票を使う場合には、用紙に明示してあるサイズを指定します。

・給紙方法

給紙方法を選択します。

印刷するプリンタと用紙の種類に応じて選択できる範囲が決まります。

給紙方法の詳細は、プリンタ取扱説明書を参照してください。

・用紙の向き

用紙を縦に使って印刷するか、横に使って印刷するかを選択します。

「横」を選択すると、90℃回転して印刷します。

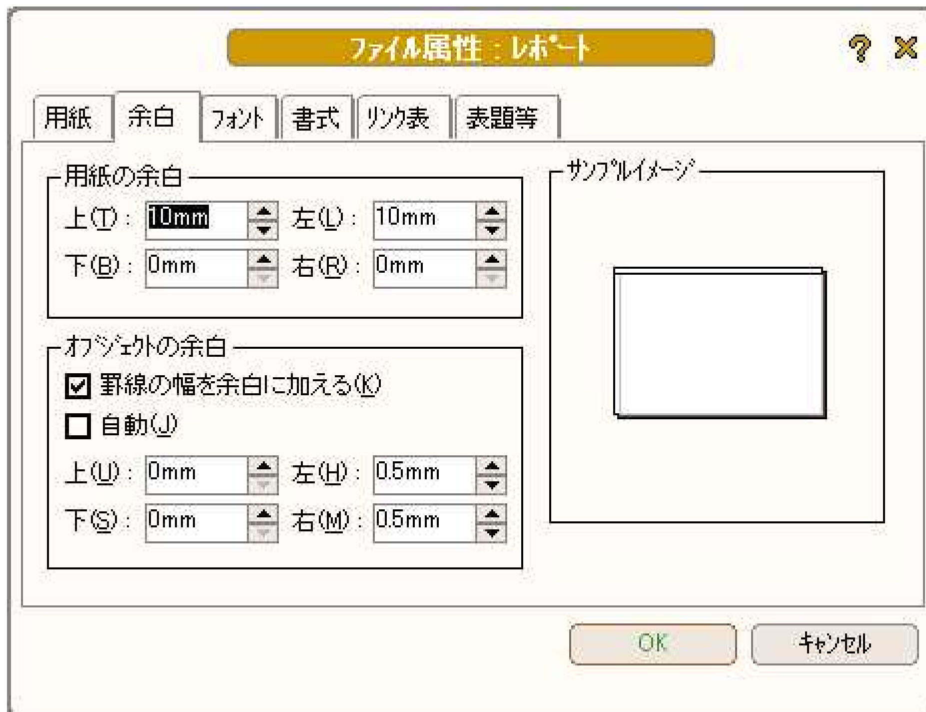
・見開き

見開きを想定して印刷する場合には、この設定を ON にします。

奇数ページと偶数ページに応じて、レイアウトを自動的に調整します。

■余白タブ■

余白タブでは、用紙及びオブジェクトの中の余白を設定します。



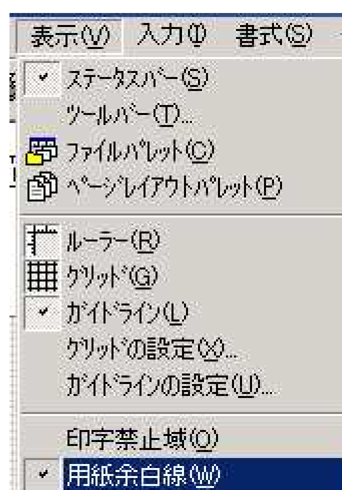
用紙の余白 **用紙の上下左右に確保する余白です。** **余白には「0(ゼロ)」を指定できますが、** **プリンタの禁止印字域に印刷は出来ないので注意が必要です。** **※印字禁止域はプリンタによって異なります**

- **用紙余白の確認**

  用紙の余白は、レポート定義画面で確認できます。

  用紙余白線が表示されていないときには、[表示]メニューから[用紙余白線]を選んで ON にします。

  用紙余白線は黒色の実践で表示されます。



・ オブジェクトの余白
オブジェクトの中(内側)にどの程度の余白をとって印刷するかを設定します。
上下左右の余白は[自動]が OFF の時に設定します。
設定可能な範囲内で増減します。
余白を大きくすると、オブジェクトの中にデータを印字できる領域が狭くなります。
[上][下]：オブジェクト内のデータの上下に確保する余白です。
[左][右]：オブジェクト内のデータの前後(左右)に確保する余白です。

※ ここで設定した[オブジェクトの余白]は、全てのオブジェクトの余白に継承されます。
特定のオブジェクトの余白を変更して印刷するには、対象[オブジェクトの属性]画面-[書式]タブで設定します。

・ 罫線の幅を余白に加える
罫線の幅をオブジェクトの余白に加えるかどうかを設定します。
この設定を ON にすると、オブジェクトを囲む罫線の幅も余白に加えます。
オブジェクト内の文字と罫線が重ならないようにするには、この設定を ON にします。
この設定は、レポート上の全てのオブジェクトに適用されます。
オブジェクトを囲む罫線の幅(太さ)は、[オブジェクトの属性]画面の[罫線]タブで設定できます。

・ 自動
この設定を ON にすると、文字間の約 1/4、行間の約 1/2 がオブジェクトの余白に設定されます。

※ 余白タブの設定
・ [用紙の余白]の初期値は、[環境設定]画面→[印刷]タブの[高度の設定]で設定できます。
・ プリンタの印字禁止域をレポート定義画面で確認するには、[表示]メニューから[印字禁止域]を ON にして、印字禁止域との境界線(明るい緑色)を表示します。
・ [用紙の余白]を小さくしすぎると、定義時と異なるプリンタでは印刷できなく場合があります。
・ 作成したオブジェクトに指定桁数の文字を印字するには、[グリットの設定]で[座標]の単位をポイントにし、[行・桁にあわせる]をクリックします。
・ さらに[ファイル属性]画面→[余白]タブの[罫線の幅を余白に加える]を OFF にし、オブジェクトの上下左右の余白を[0(ゼロ)]にします。

※ 余白と印字禁止域
用紙の余白は、プリンタのプロパティで設定することもできます。
プリンタのプロパティで設定した余白は、桐では印字禁止域として認識されます。
プリンタの印字禁止域の境界一杯まで使って印刷するには、あらかじめプリンタのプロパティで用紙の余白を「0(ゼロ)」にしておく必要があります。
プリンタのプロパティは、Windows の[コントロールパネル]の[プリンタ]で設定します。
プリンタのプロパティの設定項目は機種によって異なるため、詳細はご使用のプリンタ取扱説明書で確認してください。

■フォントタブ■

フォントタブでは、そのレポートで使用する基準のフォントを設定します。
特定のオブジェクトを異なるフォントで印刷するには、
そのオブジェクトを選択して[オブジェクトの属性]画面の[フォント]タブで設定します。



・フォント
日本語を印刷するために日本語フォント名と英字を印刷するための英文フォント名を設定します。
スクロールバーをクリックしてフォント一覧から選択します。

・スタイル
文字装飾を設定します。
標準・斜体(イタリック)・太字(ボールド)・太字斜体(ボールドイタリック)・下線の中から選択します。
「標準」以外のスタイルは、「標準」よりも文字サイズが多少大きくなります。

・サイズ
文字の大きさを設定します。単位はポイントです。
数値が大きいほど文字のサイズも大きくなります。スクロールバーをクリックして一覧から選択します。

・文字色
文字の色を設定します。(カラープリンタでのみ有効です。)

※フォントタブの設定

・[フォント]タブでは、桐の環境設定の[印刷]タブの[フォント]に設定されている内容を引き継いでいます。
・ここで変更した設定は、[オブジェクトの属性]画面→[書式]タブで「継承」を設定している属性に引き継がれます。
[ファイル属性]画面→[書式]タブの[組み方向]が「縦組み」、
あるいは[オブジェクトの属性]画面→[書式]タブの[文字方向]が「縦書き」の場合には
[英文フォント]は無視され、日本語フォントで印刷されます。
・プリンタフォントを指定すると、印刷結果と画面イメージとが異なる場合があります。
・コンピュータ上にないフォントを指定すると、画面上では代替フォントで表示されます。
・フォントによっては、一部スタイルのないものがあります。

■書式タブ■

1 ページあたりの行間・文字列を設定します。

文字間

文字と文字との間隔です。

文字列を指定するには「指定値」を選択し、設定します。

「標準」を選択すると、文字間の設定は標準に戻ります。

設定を変更した場合の他の属性への影響は下記の通りです。(それぞれ自動的に調整されます。)

- 行間を増やす→オブジェクトあたりの行数が減ります。
- 行間を減らす→オブジェクトあたりの行数が増えます。

組み方向

組み方向は、レポート全体を横組み(横書き)で印刷するか、縦組み(縦書き)で印刷するかの設定です。

■対象表タブ■

印刷対象表は、次のふたつのレベルで設定します。

ファイル属性：レポート

用紙 余白 フォント 書式 リンク表 表題等

表ファイル名(T)： ¥給与明細¥明細.tbl

表編集の状態を継承(I)

表の操作を有効にする(A)

表の操作(O)...

印字属性

印字強制改行文字(P)：

非印字強制改行文字(N)：

表の改行文字有効(E)：

明細レコードの印刷(M)： オブジェクト優先 ページ優先

OK キャンセル

レポート全体の対象表：[ファイル属性]画面で指定します。
一覧表・伝票・タイルオブジェクトの対象表：[オブジェクトの属性]画面で指定します。

ここでは、レポート全体に反映される対象表(主表といいます)を指定します。
白紙から単票形式レポートや複合形式レポートを作成する場合には、必ず指定します。
レポートには、一覧表・伝票・タイルオブジェクトのみを定義した場合には、通常、ファイル属性の対象表は設定しません。
レポートを簡易作成やテンプレートで作成したときには、レポートの形式に応じて自動的に指定した表ファイル名が登録されます。
※ サンプルレポートファイルの対象表の初期値は「¥給与明細¥明細.tbl」です。
レポートファイルの保存先を変更する時はこのパスを変更する必要があります。

- [ファイル属性]画面で[対象表]タブに切り替えます。
- [表ファイル名]の[…]ボタンをクリックして、[表の選択]画から表ファイルを選びます。
- 次の設定で開いている表の編集状態で印刷するかどうかを指定します。

  [表編集の状態を継承]※チェックします
  この設定を ON にすると、対象表が既に開かれているとき、編集している状態のまま印刷します。
  [表操作を有効にする] ※チェックます。
  この設定を ON にすると、表の編集状態を継承して印刷するときでも、
  [表の操作]ボタンで指定した並べ替えと絞り込みを行います。
  [表編集の状態を継承]ボタンを ON にした場合に設定できます。

印刷対象表

- レポートは、基本的に指定した対象表に専用のもので、他の表のデータを印刷することはできません。
  ただし、表定義（厳密にはオブジェクトに設定してある項目）が同一である表の場合に限って、対象表が異なっていても印刷することが出来ます。
- レポートに定義されているオブジェクトが、一覧表・伝票・タイルのだけの場合には、通常、ファイル属性の対象表は設定しません。
- 複合形式レポートでも、印刷日時やページ番号等表のデータ以外のオブジェクトだけをレポート上に定義した場合、ファイル属性の対象表は設定しません。

表の操作

事前に並べ替え・絞り込み・単一化を実行して、その結果のデータをもとにレポート印刷することができます。
対象表に登録されている並べ替え条件・検索条件・単一化条件を指定します。
一覧表・伝票・タイルの各オブジェクトの表の操作は、[オブジェクトの属性]画面の[対象表]タブで設定します。
あらかじめ対象表に使用する処理条件を登録しておきます。

強制改行文字を設定する

備考やメモ等の文字数の長いデータを印刷する時、適当な位置で改行されると見やすくなります。
レポートでは、特定の文字がデータの中に現れた時点で強制的に改行して印刷されます。
(強制改行文字といいます)
強制改行文字には、下記の 2 種類があります。

- 印刷強制改行文字：指定した文字で改行され、その文字も印字されます。
- 非印字強制改行文字：指定した文字で改行され、その文字は印字されません。

印字強制改行文字

指定した文字が、データの中にあるとその文字で改行され、指定した文字も印刷されます。
一般に、データとして違和感の無い文字(たとえば空白文字)で改行する時に設定します。
ただし「。」のように頻出する文字を設定すると、改行の必要のない箇所で改行される可能性があります。
64 文字以内で指定します。

非印字強制改行文字

指定した文字がデータ内にあると、その文字で改行されます。
指定した文字は印字されません。
一般にデータとしては使用しない文字(たとえば＼等)で改行する時に設定します。
64 文字以内で指定します。

表の改行文字有効

この設定を ON にすると､対象となっている表のファイル属性に設定されている強制改行文字が引き継がれます。
右の欄には、対象表の強制改行文字が表示されます。

※　強制改行文字

- 強制改行文字には、空白文字を設定することが出来ます。
- オブジェクトのデータが 1 行で印刷できない時の改行文字(あふれ改行文字)は、[オブジェクトの属性]画面の[印刷属性]タブに設定します。
- 一覧表・伝票・タイルオブジェクト内の印字/非印字の強制改行文字は、各オブジェクトの属性の[対象表]タブで指定します。

改行文字

　レポートでは、次のような改行文字が用意されています。

- 強制改行文字

　そのレポートにおける共通の強制改行文字です。その文字がデータの中に出てきたら必ず改行されます。

　１．　印字強制改行文字：その文字も印刷されます。

　２．　非印字強制改行文字：その文字は印刷されません。

- オブジェクトの強制改行文字

　一覧表・伝票・タイルの各オブジェクトでは、オブジェクトごとに強制改行文字を指定できます。

　[オブジェクトの属性]画面の[対象表]タブに設定します。

- オブジェクトのあふれ改行文字

　そのオブジェクトのデータが 1 行に収まらない時にだけその文字で改行されます。その文字も印字されます。

明細レコードの印刷

複合形式レポートで複数の明細ページを使用するとき、次にあげるオブジェクトの明細レコードを、全て印刷してから、次の明細ページを印刷するか、明細ページの配置を優先して印刷するかを指定します。

■表題等タブ■

表題等タブでは、表題、レポートの作成者、セキュリティ、レポート全体に共通な印字属性を指定します。

セキュリティ

レポートにセキュリティをかけるには[セキュリティ]ボタンをクリックして[セキュリティ]画面を表示し、[定義利用者コード]を設定します。

ここに設定したコードをしらないユーザーは、このレポートの定義を変更することはできません。

ここに設定したコードを桐の起動時に入力すると、このレポートの定義を変更することが出来ます。

誰でも自由にレポート定義を変更できるようにするには、省略しておきます。

表題
レポートは、ファイル名で区別しますが、ファイル名だけでは判断できない場合があります。
そこで、レポートの用途や印刷帳票の型番等のタイトル、覚え、メモを 20 文字以内で入力します。

作成者
レポートファイルを作成した人の氏名等を入力します。
10 文字以内で入力します。作者者の設定内容はセキュリティには関係ありません。

バーコード
ここで設定したバーコードの種類がバーコードオブジェクトの初期値になります。

負符号
負の数値データの先頭に付加する符号を設定します。

ページ番号初期値
1 枚目ページ番号を設定します。

連番初期値
#連番は 1 ずつ加算した値を印刷する為の関数です。
この関数を定義したオブジェクトが印刷されるごとに、ここで指定した値を初期値として、1 ずつ加算した値が印刷されます。
一覧表・伝票・タイルオブジェクト内の#連番の初期値は、それぞれの[オブジェクトの属性]画面→[対象表]タブの[#連番初期値]に指定します。

定義位置を固定する
この設定を ON にすると、データの長さに関係なく、レポート上に配置したオブジェクトの位置に従ってデータが印刷されます。
一般に、市販の帳票類のように仕切り線が印刷されている場合には ON にします。
データの長さがオブジェクトサイズを超えるとき、
[オブジェクトの属性]画面→[表示]タブの[データがあふれたとき、次ページに印刷する]の設定によって、あふれたデータは次のように処理されます。
ON：残りのデータは次のページに印刷されます。
OFF：残りのデータは切り捨てられます。
この設定を OFF にすると、定義したオブジェクトに収まらないデータがあるとき、そのオブジェクトを下に拡張して印刷します。
レポート上に配置したオブジェクトは、オブジェクト間の間隔を保持したままそれぞれ下に送られて印刷されます。

図形パスを使用する

画像ファイルの保存されているパスの扱いの指定です。

この設定を ON にすると、ピクチャオブジェクトにおいて画像ファイル名にパスが指定されていないとき、環境設定の[図形パス]を付加して処理します。

[図形パス]がないとき、次のように処理します。

- **[ソース]が項目値の場合**
  環境設定の[図形パス]を付加します。
  ただし、[図形パス]が設定されていない場合には、対象表ファイルのパスを付加します。
- **[ソース]が計算式や定数等の項目値以外の場合**
  この設定が ON の時には、環境設定の[図形パス]を付加します。
  ただし、[図形パス]が設定されていない場合には、レポートファイルのパスを付加します。
  この設定が OFF の時には、レポートファイルのパスを付加します。
  いずれの場合も、そのパスに画像ファイルがないとエラーになります。

日時型・時間型の表示形式を設定する

日付型および時間型のデータは、規定では項目値は対象となっている表の項目の表示条件を、式は桐の環境設定の表示形式を引き継いで印刷されます。

これ以外の表示形式で印刷するときに、ファイル属性でそのレポートに表示形式を指定します。

なお、ここで設定した表示形式と異なる表示形式で印刷するオブジェクトがある場合には、[オブジェクトの属性]画面→[印刷属性]タブの[日時型の印刷方法の指定]ボタンをクリックして設定します。

オブジェクト属性の概要

オブジェクト

表のデータや見出し、画像等を印刷するには、レポートのデザインページに各種の領域(オブジェクト)を定義します。
定義したオブジェクトの種類と属性の設定内容によって、データをどのように印刷するかが決まります。

オブジェクトの種類

オブジェクトは 3 タイプに大別でき、それぞれ次のような種類があります。
印刷するデータによってオブジェクトを使い分けます。

＜データを印刷するオブジェクト＞
ラベル：見出し等の固定した文字列を印刷します。
テキスト：表のデータ、式(桐関数や変数)の結果を印刷します。
集計：集計結果を印刷します。
グラフ：グラフを印刷します。
バーコード：バーコードを印刷します。

＜線画を印刷するオブジェクト＞
直線：直線を印刷します。
短形：短形を印刷します。
角丸め短形：角丸め短形を印刷します。
円：円・楕円を印刷します。

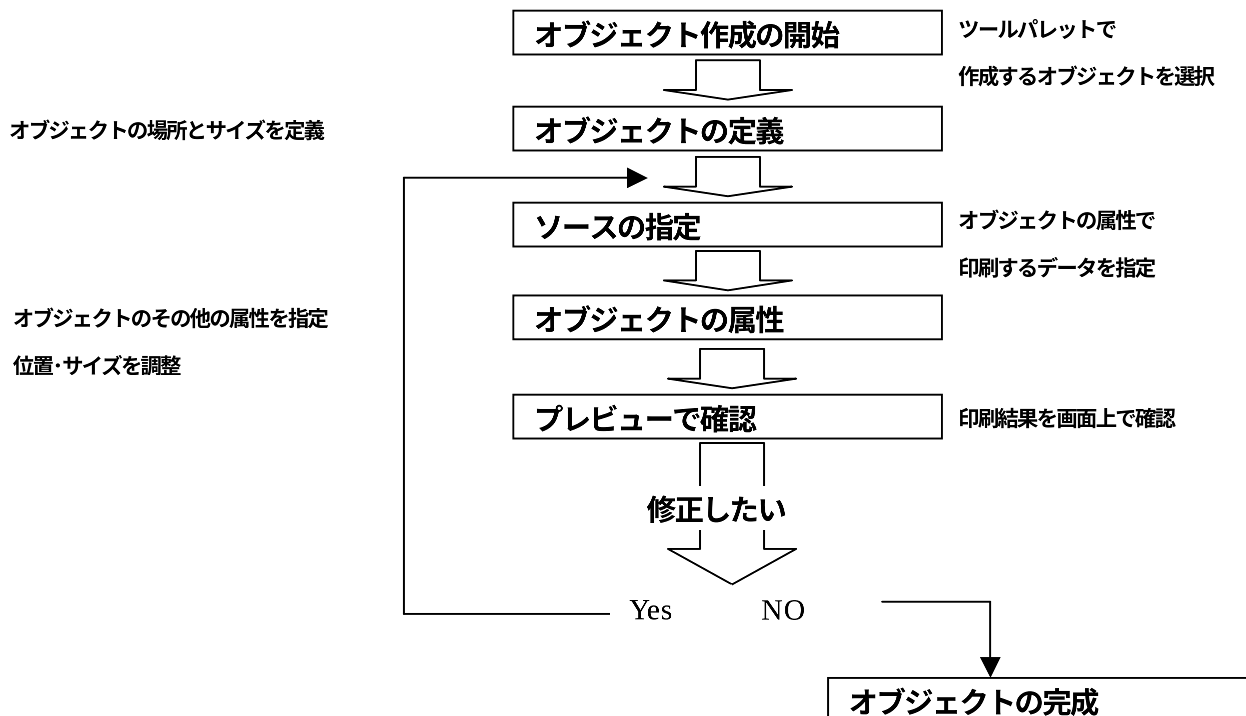
＜異なる形式のレポートを印刷するオブジェクト＞
一覧表：一覧表形式レポートのオブジェクトです。
セルの集合体で、それぞれのセルもオブジェクトです。
1 ページに複数のレコードを印刷します。
明細、グループヘッダ、グループフッタのデータがセルからあふれるときには行を拡大します。
伝票：伝票形式レポートのオブジェクトです。
セルの集合体で、それぞれのセルもオブジェクトです。
1 ページに複数のレコードを印刷します。
データがセルからあふれる時には切り捨てます。
タイル：タックシール形式レポートのオブジェクトです。
タックシールやラベルを印刷します。
1 枚のタイルの中にラベルやテキスト等のオブジェクトを定義します。

オブジェクト作成の流れ

オブジェクト作成の流れは、およそ次のようになります。

レポート上でオブジェクトの種類・場所・サイズを指定したら、印刷するデータと属性を設定します。

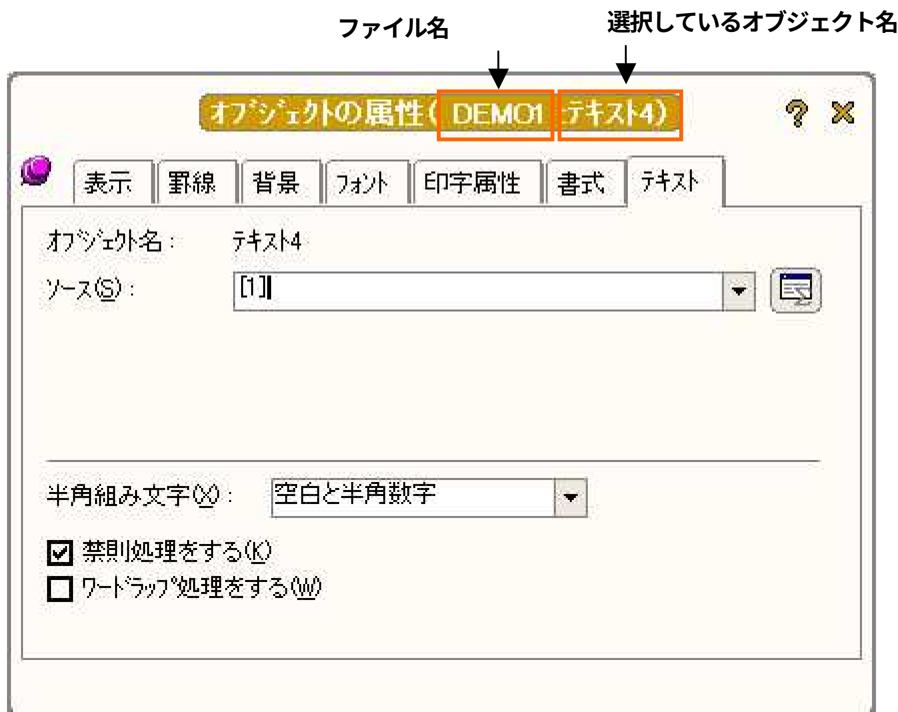
プレビューで印刷結果を確認しながら調整していきます。



オブジェクトの属性

オブジェクトの属性を表示する

オブジェクトの属性には、オブジェクトに関する全ての設定情報が登録されています。
オブジェクトの属性の設定内容によって、オブジェクトのデータをどのように加工して印刷するかが決まります。



オブジェクトの属性の内容はオブジェクトの種類によって異なりますが、
例としてテキストオブジェクトの場合には次の 7 つのタブで構成されます。

表示：オブジェクトの位置・サイズ・表示に関する属性
罫線：オブジェクトを囲む罫線の属性
背景：オブジェクトの背景色の属性
フォント：印字する文字の書体、サイズ等の属性
印字属性：データを加工して、印刷する際の属性
書式：書式の属性
テキスト：印字するデータ(項目)の属性

オブジェクトを選択して、[書式]メニューから[オブジェクトの属性]を選択、またはオブジェクトをダブルクリックします。

ピンの使い方
ピンを立てる：[オブジェクトの属性]画面を常に表示します。
他のオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトの属性に切り替わります。
連続して、複数のオブジェクトの属性を設定できます。

ピンを寝かせる
レポートの定義画面や他のオブジェクトを選択すると、
自動的に[オブジェクトの属性]画面を閉じます。

オブジェクトの属性

- 属性の設定は、対象オブジェクトだけに有効です。
  複数のオブジェクトを選択すると、同じ内容を一度に設定できます。
- [オブジェクトの属性]画面は、場所を移動できます。
  画面のタイトルをクリックして、そのままマウスを動かすと画面が移動します。
  適切な位置になったところでボタンから指を離します。
- オブジェクトをダブルクリックしても[オブジェクトの属性]が出てこないときには、[書式]メニューから、[定義画面の設定]を選んで、[定義画面の設定]画面で[ダブルクリック属性を表示]を ON にします。

■表示タブ■

オブジェクトの位置・サイズ・印刷の属性を設定します。

始点 X

　オブジェクトの左上隅の X 座標(横の座標)です。オブジェクトが左右に移動します。

始点 Y

　オブジェクトの左上隅の Y 座標(縦の座標)です。オブジェクトが上下に移動します。

表示幅

　オブジェクトの横幅です。

高さ

　オブジェクトの高さです。

印刷する

　この設定を ON にすると、オブジェクトの内容が印刷されます。

　印刷したくないオブジェクトは OFF にします。

データがあふれたとき、次ページに印刷する

この設定を ON にすると、データの文字数が多くて領域に収まらない時、残りのデータが次ページに印刷されます。OFF にすると、あふれたデータは切り捨てられます。

※ [ファイル属性]画面→[表題等]タブの[定義位置を固定する]が OFF の場合には、本設定にかかわらず、オブジェクトの高さが自動的に拡大され、データが最後まで印刷されます。

既定値は、ラベルオブジェクトでは OFF、

テキスト・集計・ピクチャ・バーコード・一覧表・一覧表セル・伝票・伝票セル・タイルとタイルの中に定義したオブジェクトでは設定できません。

他のオブジェクトのデータがあふれたとき、繰り返し印刷する

他のオブジェクトのデータがあふれて次ページに印刷されたとき、次ページにもこのオブジェクトのデータをもう一度印刷するには、この設定を ON **にします。**

※ **既定値はラベル・ピクチャ・直線・短形・角丸め短形・円の各オブジェクトでは** ON、
テキスト・集計・バーコードの各オブジェクトでは OFF **になっています。**
一覧表・一覧表セル・伝票・伝票セル・タイルとタイルの中に定義したオブジェクトでは設定できません。

全ページに罫線・背景を印刷する

他のオブジェクトのデータがあふれて次ページに印刷されたとき、次ページにこのオブジェクトの罫線と背景だけをもう一度印刷するには、この設定を ON **にします。**

※ [**他のオブジェクトのデータがあふれたとき、繰り返し印刷する**]**が** ON **のときには、本設定にかかわらず、このオブジェクトの罫線と背景がデータとともに印刷されます。**
一覧表・一覧表セル・タイルとタイルに定義したオブジェクトでは、設定できません。

■罫線タブ■

オブジェクトを囲む罫線を設定します。

罫線モード：罫線の種類を選択します。

罫線無なし：この設定を ON にすると、[罫線]で選択していても罫線は引かれません。

影をつける：この設定を ON にすると、[罫線モード]で「囲み罫線」を選択した時に、下と右に影をつけます。



罫線

[**罫線モード**]**で「囲み罫線」を選択した時に上下左右の罫線について 1 本ずつ種類や太さ、色等を設定します。**

この画面で設定する罫線を選択してから、クリックして ON/OFF を切り替えます。

※ **一覧表・伝票オブジェクトのセルでは、上下左右の罫線に加えて、セル内に横中央罫線と斜め罫線を引くことができます。**

罫線を設定するセルを選択してから指定します。一覧表・伝票オブジェクトのセルでは、[影をつける]は無効です。

線の種類

[罫線モード]で「囲み罫線」を選択した時に、罫線の種類を 1 本ずつ設定します。

線の太さ

[罫線モード]で「囲み罫線」を選択した時に、罫線の太さを 1 本ずつ設定します。

線の色

[罫線モード]で「囲み罫線」を選択した時に、罫線の色を 1 本ずつ設定します。
[罫線]で設定する罫線を選択してから一覧から選びます。

オブジェクト囲み

一覧表・伝票オブジェクトのセルの内側を囲む罫線を指定します。
セルを選んで「囲み罫線」を指定したときのみ設定できます。
[オブジェクト囲み]ボタンをクリックすると、[オブジェクト囲み]画面が出てきます。

・オブジェクトを囲む

この設定を ON にすると、セルの内側を囲む罫線を印刷します。
[罫線]タブで設定した罫線よりも内側に印刷されます。
セル間の仕切り罫線は、[罫線]タブで設定します。

・線の種類

「細線」か「太線」を選択します。

・線の色

一覧から選択します。

・角丸め

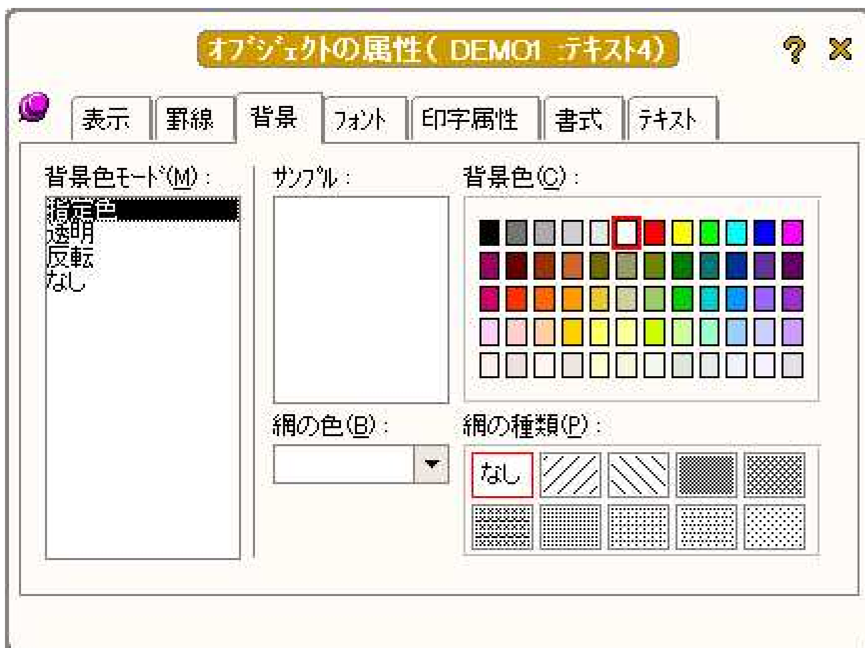
この設定を ON にすると、オブジェクト囲みの線の角を丸めます。

・データがない場合は印刷しない

このデータを ON にすると、データがないときに囲み罫線を印刷しません。

■背景タブ■

オブジェクトの背景に関する設定を行います。



背景色モード

背景色(オブジェクトの地の色)の処理方法を選択します。

指定色：[背景色]指定した色で背景を印刷します。
網をかけるには、さらに[網の色]と、[網の種類]を設定します。

透明：背景を透明(素通し)にして印刷します。
網をかけるには、さらに[網の色]と、[網の種類]を設定します。

反転：背景を[背景色]で、文字を白にして印刷します。
[フォント]の[文字色]は無視されます。

なし：背景を印刷しません。

背景色

背景の色を選択します。[背景色モード]で「透明」や「なし」を選択した時には設定できません。

網の色

網をかける時の色を選択します。

網の種類

網をかける時の色を選択します。

■フォントタブ■

　オブジェクトのフォントに関する設定を行います。

そのオブジェクトをレポートの標準フォント以外の書体で印刷する時に設定します。



■印字属性タブ■

オブジェクトのデータを加工して印刷する場合や、オブジェクトで数値データに詰め文字・通貨記号・位取りのコンマ・丸め等の加工を施して印刷する設定します。

先頭付加文字

データの先頭に付け加える文字がある場合に、その文字列を設定します。
ここで設定した文字列は、このオブジェクトで印刷する全データに付け加えられます。

末尾付加文字

データの末尾に付け加える文字がある場合に、その文字列を設定します。
ここで設定した文字列は、このオブジェクトで印刷する全レコードのデータに付け加えられます。

あふれ改行文字

データが 1 行に収まらない場合、次の行にも印刷します。
このとき、あふれ改行文字を指定しておくと、その文字で改行され、体裁を整えることができます。
（64 文字まで指定できます。）

文字変換

印刷するデータの文字の種類を変換して印刷するときに設定します。

なし：変換は行われません。
→全角：半角文字は全角文字に変換されます。
→半角：全角文字は半角文字に変換されます。
→漢数字 1：たとえば「12345」は「一二三四五」に変換されます。
→漢数字 2：たとえば「12345」は「一万二千三百四十五」に変換されます。
→漢数字 3：たとえば「12345」は「壱万弐千参百四拾五」に変換されます。

ルビを印刷

この設定を ON にすると､[テキスト]タブの[ソース]に指定した項目に対応したふりがな項目のデータが印刷されます。

このオブジェクトの[ソース]には、被ふりがな項目が[氏名]である場合には、[ソース]に[氏名]を指定します。

ルビのフォントサイズは、データのフォントサイズの約 1/4 です。

被ふりがな項目の設定は表で行います。

埋め文字

数値データのあまった場所に文字を埋め込んで印刷する時に設定します。

・なし：文字を挿入しません

・ゼロ埋め：データの先頭に「0(ゼロ)」を挿入して印刷します。

[位取りコンマ]が ON の時には、無効です。

・星埋め：空いた部分にアスタリスク(＊)を挿入して印刷します。

[オブジェクトの属性]画面－[書式]タブの[横の位置]の設定が「右寄せ」のときにはデータの先頭に、「左寄せ」のときにはデータの末尾に印刷します。

通貨記号

数値データの先頭に通貨記号をつけて印刷する時に設定します。

丸め

数値データを丸めて印刷する時に[小数桁]を併せて設定します。

・なし：データを丸めません。

・切り捨て：[小数桁]に指定した桁の下の位で切り捨てます

・切り上げ：[小数桁]に指定した桁の下の位で切り上げます。

・四捨五入：[小数桁]に指定した桁の下の位で四捨五入します。

※ [丸め]を指定しても、表に保存されているデータが丸められるわけではありません。
（印刷結果にだけ反映されます）

小数桁

数値データを丸めるときの小数点以下の桁数を指定します。

「-1」を指定すると、全ての桁が印刷されます。

[丸め]で「なし」を選択した時には「-1」とみなして全ての桁が印刷されます。

[小数桁]を指定しても、表に保存されているデータが丸められるわけではありません。
（印刷結果にだけ反映されます）

位取りコンマ

この設定を ON にすると、数値データに位取りのコンマをつけて印刷します。

正符号表示

この設定を ON にすると、正の数値データの先頭に正の符号(＋)をつけて印刷します。

指数表示

この設定を ON にすると、数値データを指数表記で印刷します。

あふれ表示

この設定を ON にすると、数値データが領域に収まらない時、桁あふれ表示としてアスタリスク(＊)を印刷します。

日時・時間データに関する設定

[日時型の印刷方法の指定]をクリックして、[日時型・時間型の表示形式の設定]画面を出します。

継承

[ファイル属性]画面－[表題等]タブの[日時型の表示形式の設定]を引き継ぐ場合には、「継承」を選択します。
このオブジェクトについて数値表示～表示範囲を設定するには「指定値」を選択します。

数値表示

月・日・時・分・秒の値が 1 桁のときの印字方法です。
設定によって 1999 年 1 月 1 日 7 時 7 分 7 秒が下記のように印字されます。

- 空白埋め：1999 年_1 月_1 日_7 時_7 分_7 秒・・・(空白を挿入して桁を揃えます)
- ゼロ埋め：1999 年 01 月 01 日 07 時 07 分 07 秒・・・(ゼロを挿入して桁を揃えます)
- 詰め無し：1999 年 1 月 1 日 7 時 7 分 7 秒・・・（十の位には何も挿入しません）

表示形式

データの表示形式を設定します。一覧から選択します。

表示範囲

値をどこまで細かく表示するかを設定します。一覧から選択します。

属性式

オブジェクトのデータ内容に応じて、フォント・負符号・コンマ挿入・網がけ等を変えて印刷するには、[オブジェクトの属性]画面－[印字属性]タブの属性式に条件式と機能文字を設定します。
条件式が真のときに、対応する式に指定した機能文字の印字属性で印刷されます。

条件式の優先順位は一番上の行がもっとも高く、一番下がもっとも低くなります。
複数の条件式を設定した場合、最初に該当する条件式の属性が適用されます。

[新規行]：条件式を新規作成します。
[行変更]：選択した条件式を変更します。
[行削除]：選択した条件式を削除します。
[↑][↓]：選択した条件式の優先順位を変更します。

条件式

この場所には、次の内容を指定します。
(例)

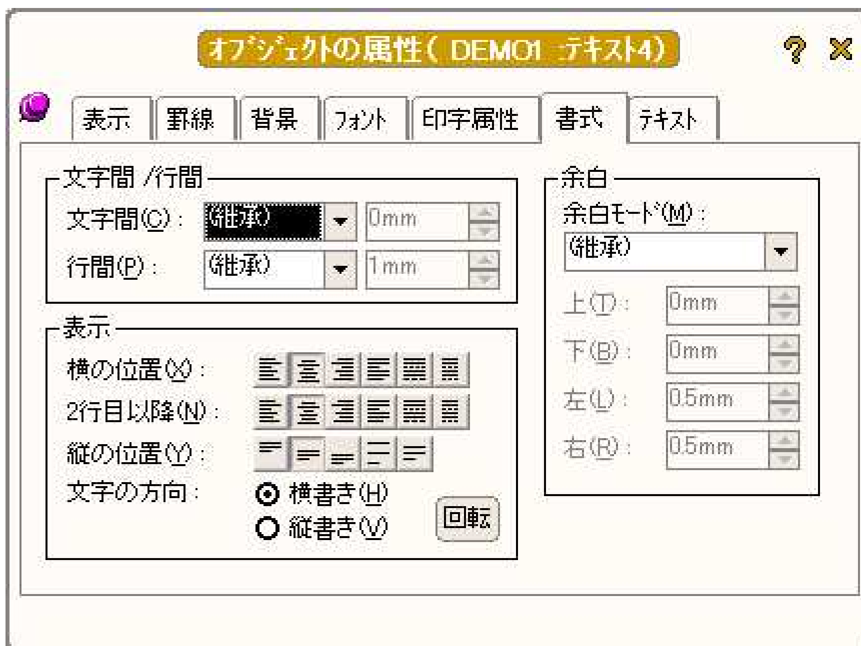
[金額]＜0・・・[金額]がマイナスならば
[性別]＝"男"・・・[性別]が男ならば

印字属性

変更する属性を指定します。
例えば、文字色を赤にするなら[文字色]をクリックして赤色を選びます。
オブジェクトの設定値のままにしておく属性は「継承」にします。

■書式タブ■

オブジェクトの文字間・行間・文字揃え・文字方向・余白等を変えて印刷する設定をします。



文字間

[ファイル属性]画面[書式]タブとは異なる文字間で印刷するときに設定します。

　継承：[ファイル属性]画面の[書式タブ]の設定と同じ文字間になります。

　標準：標準設定(文字間は 0(ゼロ))になります。

　指定値：文字間を設定できます。

単位は、[グリットの設定]画面の[座標の単位]と同じです。

行間

[ファイル属性]画面の[書式]タブとは異なる行間で印刷するときに設定します。

　継承：[ファイル属性]画面の[書式]タブの設定と同じ行間になります。

　標準：標準設定(日本語フォントサイズの約 1/4)になります。

　指定値：行間を設定します。単位は、[グリットの設定]画面の[座標の単位]と同じです。

横の位置

データを印字する時の文字揃えを選択します。

　左寄せ：領域の左に揃えます。

　中央寄せ：領域の中央に揃えます。

　右寄せ：領域の右に寄せます。

　頭末揃え：自動改行となる行の行頭と行末を揃え、強制改行または最終行を左に寄せます。

　左右均等 1：文字を均等に割り付け、両端を揃えます。

　左右均等 2：行頭と行末に空白を入れ、文字を均等に割り付けます。

2 行目以降

データが複数行にわたるときの 2 行目以降の文字揃えを選択します。

縦の位置

データを印刷する時の文字の縦の位置を選択します。

上詰め：領域の上端に寄せます。

中央揃え：領域の中央に揃えます。

下詰め：領域の下端に寄せます。

上下均等 1：上詰めで配置し、下に余白ができる場合には、
行を均等に割り付け、上下両端を揃えます。

上下均等 2：上詰めで配置し、下に余白ができる場合には、
上端と下端に空白を入れ、行を均等に割り付けます。

文字の方向

そのオブジェクトを「横書き」で印刷するか「縦書き」で印刷するかを選択します。

余白

オブジェクトの内側に確保する余白の設定です。

[ファイル属性]画面－[余白]タブの[オブジェクトの余白]とは異なる余白で印刷するときに、[余白モード]を設定します。

継承：[ファイル属性]画面－[余白]タブの設定と同じ余白になります。

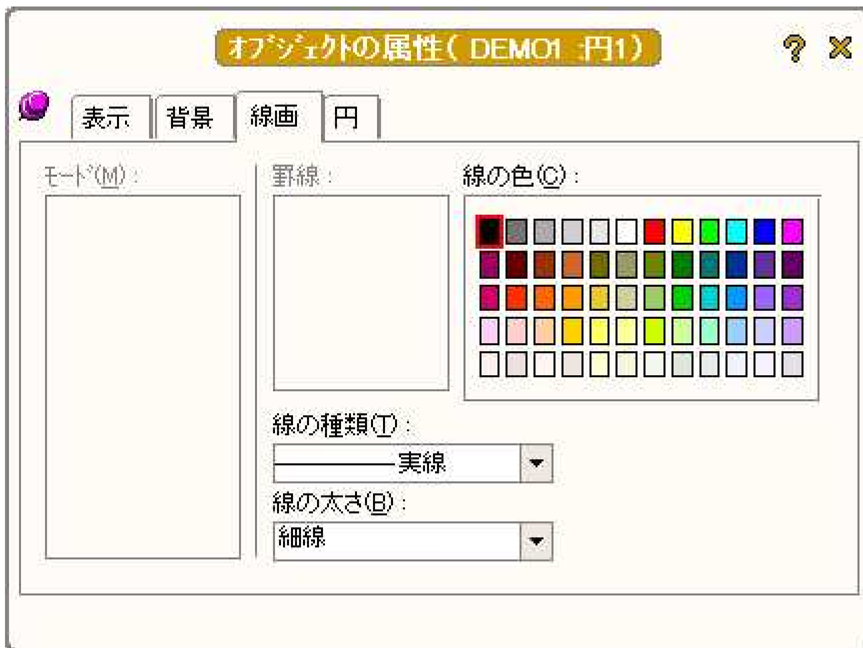
自動：上下の余白を行間の 1/2、左右の余白を文字間の 1/4 にします。

指定値：上下左右の各余白設定できます。

※ 一覧表・伝票・タイルの各オブジェクト内の余白の設定は[オブジェクト内のセル余白]で設定します。

■線画タブ■

直線・短形・角丸め短形・円・楕円の各オブジェクトの線の種類・太さ・色等を設定するには[オブジェクト属性]画面の[線画]タブを設定します。



線の種類：罫線の種類を一覧から選択します。
線の太さ：罫線の太さを一覧から選択します。
線の色：罫線の色を一覧から選択します。

テキストオブジェクト

テキストオブジェクトは
レポートのツールパレットか、項目名パレットで作成します。

ツールパレットでの作成

1. レポートツールパレットで、 ab (テキスト)をクリックし、テキストオブジェクトの位置とサイズをマウスで指定します。
   作成する領域の左上隅をクリックし、ボタンを押したままマウスを動かすと、領域を示す短形が広がります。短形が適切な大きさになったところでボタンから指を離します。
2. テキストオブジェクトの周囲にハンドルが表示され、選択されていることを確認し、[書式]メニューから[オブジェクトの属性]を選んで画面を出します。
3. 印刷する項目を指定します。[テキスト]タブに切り替え、[ソース]の一覧かて入力で項目を選択します。
4. その他の属性は必要に応じて設定します。

項目名パレットでの作成

1. [ツール]メニューから[項目名パレット]を選んで項目名パレットを出します。
2. 項目名パレットで定義する項目名をクリックします。(ボタンを押したまま次の操作に進みます。)
3. ボタンを押したままマウスをオブジェクトを定義する位置まで動かします。
   適切な位置になったところでボタンから指を離すとテキストオブジェクトが作成されます。
4. [オブジェクトの属性]画面でフォント・書式・印字属性等を設定します。

※ [ソース]の項目名一覧が表示されないときには、対象表が設定されていません。
※ 項目行は変数に格納されているので、&A1，&A2…とオブジェクト毎に設定する必要があります。

テキストオブジェクトの属性・・・テキストオブジェクトの属性を指定します。

オブジェクト名
対象テキストオブジェクトの名前です。自動的に設定されます。

ソース
下記のいずれかを指定します。
　　項目名：指定した項目の値が印刷されます。一覧から選択します。
　　変数名：指定した変数に代入されている値が印刷されます。
　　[…]ボタンをクリックして[式入力]画面で指定します。
　　計算式：指定した計算式の計算結果が印刷されます。
　　[…]ボタンをクリックして[式入力]画面で指定します。

半角組み文字
縦書きで印刷するときの半角の組み文字を選択します。

禁則処理をする
この設定を ON にすると、行頭及び行末の禁則処理が行われます。
規定では桐の環境設定画面－[印刷]タブの[禁則処理をする]の設定が引き継がれます。
禁則文字は、桐の環境設定画面の[印刷]タブで指定します。

ワードラップ処理する
この設定を ON にすると、行末の英単語が次の行にまたがらないように調整されます。
規定では桐の環境設定画面の[印刷]タブの[高度な設定]の[英文ワードトラップをする]の設定が引き継がれます。

テキストオブジェクトでデータをカンマ区切りにする

[**オブジェクトの属性**]**画面ー**[**テキスト**]**タブの**[**ソース**]**に指定します。**

[**ソース**]**で**[…]**ボタンをクリックして**[**式入力**]**画面**(**式入力エディタ**)**で指定します。**

例　#num(［1］)

［印字属性］タブの［位取りコンマ］にチェックします。

※　**データを桐の表に読み込む際、オブジェクトの属性は全て「文字列」扱いになります。**

よって、数値関数（#num**）でオブジェクトの属性を数値にし、**

［印字属性］タブで位取りコンマをつけるようチェックして設定します。

データ 0 **の値は印字しない**

[**オブジェクトの属性**]**画面ー**[**テキスト**]**タブの**[**ソース**]**に指定します。**

[**ソース**]**で**[…]**ボタンをクリックして**[**式入力**]**画面**(**式入力エディタ**)**で指定します。**

例　#**条件選択（**#num（[1]）<>0,#num（[1]）,1,#**未定義）**

ピクチャオブジェクト

ピクチャオブジェクトとは、画像ファイルを印刷するための領域です。
帳票に社名ロゴとしで挿入したり、背景とて定義し印刷することができます。

ピクチャオブジェクトでは、次の形式の画像ファイルを扱うことができます。

- Windows **ビットマップファイル（**＊.bmp、＊.dib**）**
- **桐図形ファイル（**＊.grp**）**
- GF **ファイル（**＊.gif**）**
- JPEG **ファイル（**＊.jpeg**）**

1. **レポートツールパレットで、** (**ピクチャ**)**をクリックし、ピクチャオブジェクトの位置とサイズをマウスで指定します。**
   作成する領域の左上隅をクリックし、ボタンを押したままマウスを動かすと、領域を示す矩形が広がります。
   短形が適切な大きさになったところでボタンから指を離すとピクチャオブジェクトが作成されます。
2. [**オブジェクトの属性**]**画面－［ピクチャ］タブの**[**ソース**]**と［倍率］を設定します。**
3. **その他の属性は必要に応じて設定します。**

ピクチャオブジェクトの属性

ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄの属性（賞与支給明細書 ﾋﾟｸﾁｬ1）

表示 | 罫線 | 背景 | 書式 | ﾋﾟｸﾁｬ

ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ名： ﾋﾟｸﾁｬ1

ｿｰｽ(S)： "ﾛｺﾞ1.jpg"

倍率(Z)： 自動

グﾙｰﾌﾟ表示(G)

オブジェクト名

対象ピクチャオブジェクトの名前です。自動的に設定されます。

ソース

画像ファイルが保存されている項目名、あるいは画像ファイル名を指定します。
一覧からか、[...］ボタンでファイル一覧から選択します。
直接指定する場合は式の形式で指定します。（例 "社名.bmp"）

倍率

画像ファイルの倍率を指定します。
自動：オブジェクトの表示幅に応じて整数倍で印刷します。
　縦サイズが拡張できる一覧表の明細・グループヘッダ・グループフッダのピクチャオブジェクトの場合は図形が収まるまで行の高さを拡張します。
　縦サイズが固定のピクチャオブジェクトで図形の縦が収まらない場合には、倍率を縮小します。
ズーム：オブジェクトの表示幅に応じて、整数倍で印刷します。
　図形の縦サイズが収まらない場合、あふれる部分は印刷しません。
スケール：オブジェクトのサイズに合わせて縦・横倍率を調整します。
1~3倍：オブジェクトのサイズに関係なく、指定倍率で印刷します。

●その他●

整合性のチェック
レポートを定義して、プレビューを実行する前や定義を保存する前に整合性をチェックすると、定義内容の矛盾等のエラーを確認できます。

1.［書式］メニューから［整合性チェック］を選びます。
2.［整合性のチェック］画面が出てきます。
3.エラー箇所を確認して［閉じる］ボタンで画面を終了し、エラー箇所を訂正します。

変数項目
項目名の変数（&A1~&A300）は、システム実行時に「変数マスタ.var」に格納されます。
レポートの再定義の状態では項目名の変数が、整合性のチェックにエラーとして表示されます。

［ツール］から［変数管理］を選択し、変数管理画面から［読み込み］ボタンで「変数マスタ.var」を選択して［実行］ボタンをクリックしてください。
項目名の変数を含む前回システム実行時格納された固有変数が読み込まれ、項目名の変数での整合性のエラーが出なくなります。